



▲細い石積みのトンネル、幅50~60cm、高さ60~70cm
人がはって通れるほどの大きさ。



トンカラリン（玉名郡菊水町瀬川）
「L」字状の谷に沿って、四面石積みのトンネル、軟質の凝灰岩の地隙に天井を架したトンネル、溝などが連続し、全長四百六十四・六メートル。抜穴説・水路説・信仰説などが出されているが、その年代とともに不明な点が多い。松本清張氏は、これを卑弥呼の鬼道と関係あるのではないかと指摘しています。



▲ 8段の階段状の施設があります。



▲地隙に天井を架した部分、高さ4~7m。一部天井石のない部分があり、そこから石を落とすとトンカラリンと音がするという。

祖先の軌跡をたどる

菊池川流域古代文化圏総合調査

全国一の豊さを誇る装飾古墳群、日本最古の在銘大刀などすぐれた副葬品の出土で知られる江田舟山古墳など、豊かな文化遺産に恵まれた菊池川流域は、邪馬台国論争にもしばしば登場し、日本古代史上に重要な位置を占めています。さらに、玉名郡菊水町にある「トンカラリン」が注目を集めるにいたり、県教育委員会では、菊池川流域の総合調査を実施することになりました。菊池川流域の古代遺跡を調査し、我らの祖先の軌跡をたどり、ふるさとを再認識することは、明日への教訓ともなるでしょう。



縄文晩期（約3000年前）の屈葬人骨



あまのいわといわかげ
天岩戸岩陰遺跡（鹿本郡菊鹿町山内）
凝灰岩壁に西面して開口し、間口十二メートル、奥行七メートル。縄文時代前期から古墳時代にかけての土器とともに、屈葬人骨・石器・骨角器・獣骨・貝類など豊富な出土品がありました。

▲天岩戸岩陰遺跡天井部